

平成17年度海外派遣研修

「アメリカ・Mayo Clinicにおける小児看護にかかわるAPN（CNS・NP）の教育背景や活動の実態から、本学の小児看護専門看護師の教育内容について検討する」についての研修報告書

看護学科 教授 加藤 令子

○期 間 平成17年8月13日～8月20日（8日間）

○研修先 アメリカ合衆国、ミネソタ州 ロチェスター（Mayo Clinic）

1. 研修の目的

本学は平成13年に、保健医療科学研究科看護学専攻・臨床看護学領域の小児看護学に専門看護師教育課程を設けた。我が国におけるAdvanced Practice Nurse（以下：APN）である専門看護師の教育に対する要望は高く、平成17年4月、小児看護の専門看護師教育課程を持つ大学院は7大学院であるが、今後、益々その数は増加していくことが見込まれている。このことから、本学の小児看護専門看護師教育を質の高いものとするため、APNの活動が活発であるMayo Clinicにおいて以下のような目的で研修を行った。

- 1）小児看護にかかわるAPN {Clinical Nurse Specialist（以下：CNS）・Nurse Practitioner（以下：NP）}の教育背景や活動の実態を知る。
- 2）小児のリハビリテーション看護でのCNSの活動の実態を知る。
- 3）上記1）2）より本学の小児看護専門看護師の教育内容について検討する。

2. 研修の概要

<Mayo Clinicの紹介>

Mayoは、大規模な1外来専門病院と2入院専門病院からなる。ベッド数は約2,000床、年間入院患者は6万人である。総スタッフ数は約3万人で、看護部には約6,000人が所属している。Masters Degree (MS) 以上の者は131人おり、APN（CNS・NP）として活躍をしたり、スタッフの教育やユニット管理等を行っている。MayoではCNSは病棟、NPは外来のみを担当することになっている。外来では、子どもと家族は診察や検診をMD（18人）とNP（4人）のどちらからでも受けられるシステムになっている。小児専門病院であるEugenio Litta Children's Hospitalは、急性期を対象とする施設であり、4ユニット1センターからなり、CNS配置は2人である。リハビリテーションを必要とする小児は、あらゆる年代を対象とした45床を持つリハビリテーションユニットに入院する。

<研修内容>

- ・小児CNSの活動の実態を知るために、3ユニットを担当するひとりのCNSの活動を見学した。また、教育背景については、CNSから直接説明を受けた。
- ・NPの活動については、ひとりのNPの活動を見学した。教育については、NPから説明を受けた。
- ・小児のリハビリテーション看護でのCNSの活動については、成人を対象とするリハビリテーションCNSと小児CNSとが連携をしてケアを提供しているため、両CNSから情報を得た。また、脳外傷CNSがおり、小児の患者を

対象に活動をしており、そのCNSの活動を見学した。

3. まとめ

1) 小児CNS

ひとりのCNSが担当するのは、2～3ユニットで患児数は約50人、勤務時間は基本的に2週間で90時間である。CNSは毎朝勤務すると同時に、担当の各ユニットのカンファレンスに参加し、CNS自身が直接ケアを提供する必要がある患児を把握する。その後は、Nsから依頼を受けた患児や自分がケアが必要とアセスメントした患児に対しケアを行う。

CNSは「痛みのケア」「スキンケア・褥瘡ケア」を特に強化し学んでおり、研修中もNsの依頼により2歳の人工肛門装着中の子どもの親へスキンケアの指導や、15歳の男児へ褥瘡ケアを実施していた。

CNSが教育を受けたUniversity of Minnesota では、CNSとNPの両方の資格を取得するためのカリキュラムとなっており、教育期間はフルタイムで2年6か月、そのうち実習は960時間であった。

2) 小児NP

勤務時間は8時から18時頃まであり、各NPは1日7人から15人程度の子どものみを担当する。

NPが行っているのは、健康な子どもの健康診査とスクリーニング、病気を持つ子どもの診断であり、必要時には薬の処方を行う。但し、患児の状態に問題がある場合や薬の量の変更時等は医師と連絡を取り合う。また、医師が診察しNPが保護者への教育等を行った方がよいと判断した場合には、NPに連絡があり担当する。NPが行う診察は、問診（日常生活に関すること等）、視診、聴診、触診、打診である。

NPの教育は、以前は医師も行っていたが、現在は教育の全てをNPが担当している。

3) 小児のリハビリテーション看護にかかわるCNS

小児の入院患者は、小児外科の患児と交通事故やレクリエーション等でのアクシデントによる外傷の患児であり、平均在院日数は約4日である。

リハビリテーションCNSが、小児のリハビリテーションを行うために学ぶことが必要な内容として挙げたのは、「ファミリーダイナミックス、ファミリー問題のアセスメント、ファミリーを含めたストレスマネジメント」であり、小児CNSが提示したのは、「コミュニケーション技術（患児と家族など）、コーディネーション技術（医療スタッフ、保険会社など）」であった。小児CNSがリハビリテーションユニットで行っているケアとして示したのは、「子どもとその家族のストレスコーピングとファミリーダイナミックスへのかかわり、家庭への移行のためのケア」であった。

リハビリテーションCNSは、Texas Woman's Universityで、フルタイムで18ヶ月の教育を受け、実習時間は1,500時間とのことであった。

特記すべきことに、脳外傷の患者を対象に活動しているCNSがいることである。このCNSは交通事故等で脳外傷にあった人を対象にし、小児の患者へもかかわっている。CNSは毎日Emergency Roomをラウンドし、ケアが必要な患者を把握し、必要な患者には病棟へ入院後に継続的にかかわる。また、医師や心理療法士から依頼を受けてケアを提供する。主な活動内容は、コーディネーションと患者が退院後転院する施設への連絡であり、特に患者が小児の場合には、学校への引継ぎを重要なこととしている。

4) 本学小児看護専門看護師教育課程の検討

今回の研修を受けて、今後特に検討すべき点は、ヘルスアセスメント、子どもを支える家族または拡大家族を中心に置いたケア、子ども本人と家族のストレスコーピングのためのケア、そして、社会で生活するための支援であった。

また、専門看護師は臨床のスペシャリストであり、卓説した看護実践が求められている。そのためには、十分な実習を行うことが必要である。今回の研修から、アメリカのCNSは900時以上の実習を行っており、臨床のスペシャリストになるための十分な知識と技術の修得のためには、900時間以上の実習の必要性が示唆された。